

京都よみうり文芸



短歌

田中 成彦 選

〆入 選

菖蒲湯に浸かれれば浮かぶ里の詩を忘れぬうちに鏡になぞる
精華 熊倉 勝彦

【評】「里の詩」が読者にも様々の想像を誘う。上の句の緩やかさと下の句の弾みの対比もいい。やって来たいつもと違つづばくらめ地球には何か起きてるの
綾部 塩尻たよ子

【評】口語体の必然性を備えている作。字足らずの結句は直せるが、不足らずの感も一つの魅力に。葱・生姜・大蒜・大葉 初鰹薬味に埋もれ火傷を冷やす
宇治 浜岡 学

【評】軽妙な味が狙いの歌ながら、下の句の比喩に不思議な現実感がある。心境とも通底するののか。
〆佳 作

迫り来る二羽の鴉を難無くに躲す鳶あり荷担し仰ぐ
舞鶴 吉富 憲治
老いぬれば何も持たざる若き日が輝くやうに見えてきたりぬ
伏見 河合 豊子
繭を繰る亡母ありありと顔ち来たる養蚕場にてありしを壊す
福知山 阪梨 義春
三日目だ決意ゆるめてなるものか歩け歩けとすかんば
東山 多内 章子
菖蒲湯を沸かすことなく銭湯もひっそりしており端午

俳句

鈴鹿 呂仁 選

〆入 選

春疾風緊急車両譲りをり

西京 古川麻美子

【評】春疾風は人にとっては迷惑なものだが、緊急車両を譲ることで人との共存共栄が成せる。
福知山 阪梨 義春

【評】子午線の町と季語のツバメを取り合わせただけの句であるが、寸分狂わずやって来るツバメに妙がある。
城陽 森下まゆみ

【評】毎朝の日課であろうか？ 自然を破壊していく社会に対しての作者なりの優しさが見える。
〆佳 作

故郷を旅たつ朝の桜かな
与謝野 植田 宗一
糞ひとつ落としたきりの燕待つ
木津川 永岡 操子
菜の花の堤京阪電車かな
中京 滝村 実
引潮に紙のひいなを乗せにけり
下京 中村倚久子
春耕や峡の農事の今昔
与謝野 千賀 志郎
母恋へばかをり拵る蓬餅
北 佐藤 嘉彦
ギガ・ガソと老いには難しおぼろ月
城陽 塚本 和子
筒抜けの青空騒ぐ花の風
左京 川端 緋

川柳

後 洋一 選

〆入 選

遅れがちでも止まらない古時計

八幡 武田 悦寛

【評】明日知れぬ身で頑張る古時計、すなわち老人への作者のやさしいまなざし。余情ある擬人法。
京丹後 山中 貞一

【評】相思相愛でもかなわぬ黄泉への旅。いえない、火の中水の底をいとわぬ二人旅をどうぞ。
宇治 木津 遊々

【評】見え見えの弁解をじっと聞いているのは年の功？ 腹の中は煮えたぎって、激怒寸前。
〆佳 作

臺立った春菜も甘い味がする
和東 西島かよ子
孫の目が光るメロンの三等分
宇治 橋本 隆
夕蛙大合唱も姿なく
伏見 山崎 秋義
語り種零歳児にも十万円
精華 熊倉 勝彦
猪の芋掘りツア―我が家にも
与謝野 和田 信江
触れ合った心の絆色あせず
京丹後 木下 正己
くしゃみ出てまわりの客はちりちりに
舞鶴 成瀬 永子
猿追いのロケット花火もう効かぬ
綾部 井上 昭司
ほんわかとあなたの気持ち知るマスク
京田辺 駒谷 菊枝
掲載を見たよと亡母の風の音
舞鶴 瀬戸小夜子

投稿規定

はがきにそれぞれ短歌5首、俳句、川柳5句以内。題は自由。住所、電話番号、氏名と短歌・俳句・川柳を明記し、〒604・8162 中京区烏丸通六角下る七観音町630、読売新聞京都総局「文芸係」で随時受け付けています。既発表作の投稿や二重投稿は厳禁です。